

充電 & 給電設備の 愛車後付け構築学

マイカー電力基地化作戦

近年頻発している災害や非常時に備えて、クルマを電源ベースにしようと考えている人も多いはず。もちろんPHVやEVを活用するのがベターだが、一般のエンジン車でも立派に電源ベースとして活躍してくれるのだ！ そこで方法論や実例を紹介しよう。

Thema

- #発電機 [Generator]
(燃料式・ソーラー式)
- #蓄電器 [Capacitor]
(車載移動型・ハンディ型)
- #充電器 [Charger]
(ソケット型・スタンド型)
- #変換器 [Converter]
(ファミリータイプ・プロユースタイプ)

自宅外でのもう一つの拠点
「動く！」電力ベース

ライフラインの確保は
まず電気から！

2011年の東日本大震災、そして、昨年の熊本地震など、日本で生活している限り地震災害から逃れることは難しい。しかしながら地震に対する備えは前述の災害を経験した人も多く、食料や水の備蓄など公共はもちろん個人レベルでも、他国に比べてしっかりしていると自負できるだろう。ここで意外と盲点になっているのがライフライ

ンの一つである電気。地域によっては何週間も停電が続くこともあり、個人レベルで自由に使える電気を確保するのは、食料や水より難しいと思われる。

そこで注目したいのが、愛車を電力ベースとして活用すること。PHVやEVでは、その活用方法が広く知れ渡っているが、実は一般的なエンジン車でもそれほど難しい問題ではないのだ。エンジン車でもオルタネーターと呼ばれる発電機とバッテリーは必ず搭載されており、PHVやEVとの違いは発電力と容量のみ。その点さえクリアできれば、災害時はもちろんアウトドアレジャーにおいても電源ベースとして自分の愛車が活躍してくれるのだ。

必要なアイテムは発電機と蓄電用のバッテリー、そして必要な電圧を供給するインバーターやコンバーターのみ。ちなみにすべて用意する必要はなく、クルマを発電機代わりに使うなど、工夫次第でリーズナブルかつ手軽に必要な電源を確保できるのである。

災害に備えてなどと大上段に構える必要はまったくない。長距離ドライブをより快適に過ごすためなど、気軽な気持ちでもしっかり備えておけば、イザという時必ず役に立つはず！